

利根地域の未来を考える政策プロジェクト会議 『promotion & harmony of tone』～利根地域の未来を提案～



埼玉県利根地域振興センター しまだ みちた
島田 道太

1 会議の概要

平成26年12月27日に国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、地方自治体においても「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を平成27年度中に策定することが求められました。

埼玉県では、人口急減・超少子高齢社会における地域の課題を掘り下げて検討し、長期的な課題解決を目指す市町村を支援するため、地域振興センターごとに「地域の未来を考える政策プロジェクト会議」を平成26年度中に設置しました。

利根地域では、管内9市町の企画担当の主に主幹級職員9名、県地域政策課職員2名、当センター職員3名の計14名をメンバーとして平成27年1月15日に「利根地域の未来を考える政策プロジェクト会議」（略称「利根未来プロジェクト会議」）を立ち上げました。計6回の会議で議論を重ね、平成27年9月に利根地域の未来を提案する「利根未来プロジェクト promotion & harmony of tone」をまとめました。



2 会議の特徴

利根未来プロジェクト会議では、以下の3つの視

点で検討を進めました。

- ① 利根地域の将来の方向性（政策）を取りまとめる
- ② 各市町の総合戦略等の策定を支援する
- ③ 県・市町の連携事業等の検討及び支援を行う

会議を進めるに当たり特に留意した点は、会議のメンバーが各市町の「地方人口ビジョン」「地方版総合戦略」策定の中心となる職員のため、会議の内容が直接的に各市町の総合戦略等の策定の参考となるように配慮したことです。

また、メンバーは組織を背負うことなく、メンバー個人の自由な発想で会議に参加することで議論を活性化させ、さらに、外部の有識者等のサポートを受けずにメンバー自らが汗をかいて分析や課題整理等を行った点が本会議の特徴です。

そして、何よりもメンバー同士のつながりを強めるとともに、議論を一層深めるために、会議後には毎回懇談会と称した飲み会を行いました。当初は毎回行う予定はなかったのですが、いつの間にか恒例となっていました。もしかするとこれが一番の成功のカギであったかもしれません。

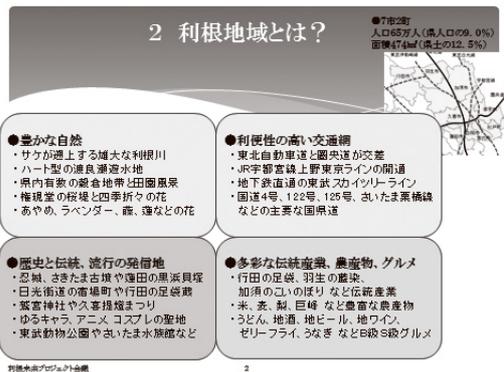
また、会議会場を各市町の持ち回りとしたことで、近くにありながらも普段訪れる機会が少ない各市町の雰囲気を肌で感じながら、魅力あるお店やグルメを楽しむことができたことも非常に良かったです。

3 検討経過① 現状把握

まずは現状把握のため、各市町の地方創生に関する取組状況の情報交換と各市町の「強み」と「弱み」

をメンバー同士で率直に意見交換しました。「弱み」については、指摘しづらかったようですが、各市町の職員の率直な意見を聞く貴重な機会となりました。そして利根地域の特徴を次の4点でまとめました。

- ① 豊かな自然
- ② 歴史と伝統、流行の発信地
- ③ 利便性の高い交通網
- ④ 多彩な伝統産業、農産物、グルメ



4 検討経過② 現状分析と課題整理

次に、現状分析と課題整理を行いました。各市町が「地方人口ビジョン」の策定を求められていることから、各メンバーが各市町における人口の動向や将来推計等のデータ分析を行い、この分析結果と「強み」や「弱み」を踏まえ、国の総合戦略で示された以下の4つの政策パッケージごとに課題整理を行いました。

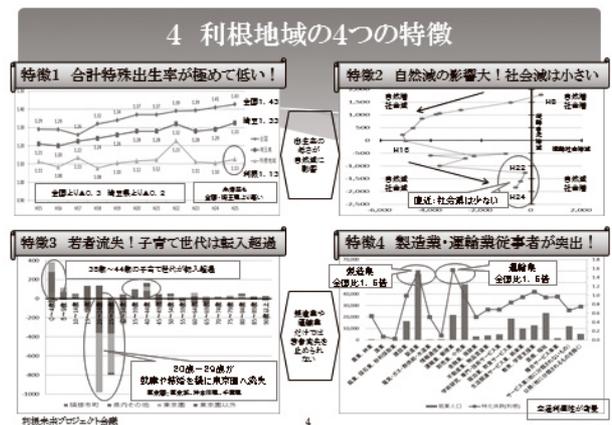
- ① 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

もちろん当センターでも9市町の数値を合算して利根地域全体の分析と課題整理を行いました。この作業に約2か月をかけ、各市町のメンバーに大きな負担をおかけしましたが、結果的にこの作業を十分

に行ったことが、利根地域の方向性（政策）を絞り込むポイントであったと思います。

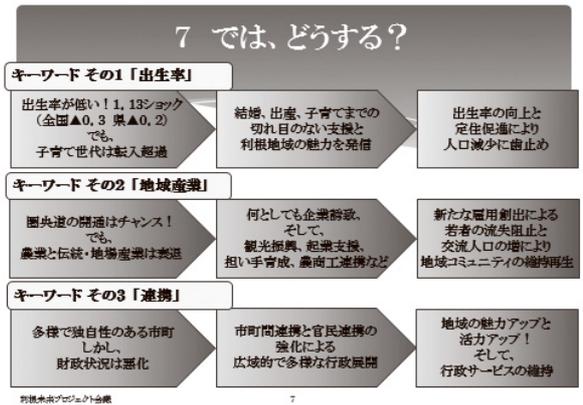
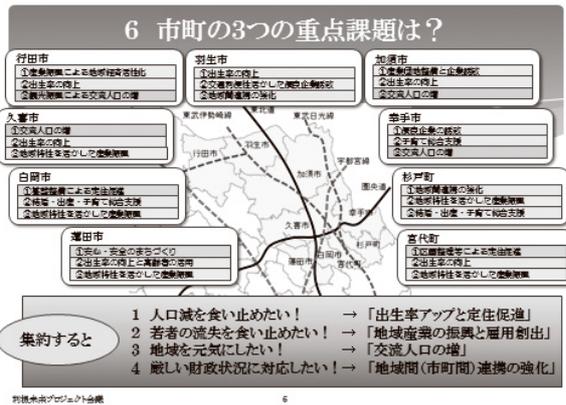
利根地域全体のデータ分析結果では、次の4つの特徴が浮き彫りとなりました。

- ① 合計特殊出生率が極めて低い
 (H25) 全国1.43 県1.33 利根1.13
- ② 自然減の影響が大きく、社会減は小さい
 (自然減は拡大傾向、社会減は縮小傾向)
- ③ 若者は流失、子育て世代は転入超過
 (H25) 20～29歳 約1,600人転出超過
 14歳未満と35～44歳 約800人転入超過
- ④ 製造業・運輸業従事者が非常に多い
 (H21) 産業別就業人口の全国比
 製造業1.5倍 運輸業1.6倍



次に、各メンバーが4つの政策パッケージごとに課題を抽出するとともに、抽出した様々な課題の中から、各市町の特徴やデータ分析結果を踏まえて重点課題を3つに絞り込みました。すると各市町の重点課題が重なり合って以下の共通課題が見えてきました。

- ① 人口減少を食い止めたい
 →出生率アップと定住促進
- ② 若者の流失を食い止めたい
 →地域産業の振興と雇用創出
- ③ 地域を元気にしたい
 →交流人口の増
- ④ 厳しい財政状況に対応したい
 →地域間（市町間）連携の強化



5 検討経過③ 方向性(政策)整理

これまでの利根地域の「強み」や「弱み」、人口動向や将来推計等のデータ分析、管内9市町の重点課題等を踏まえ、利根地域全体の課題と方向性を以下の3つのキーワードで整理しました。

- ① キーワード その1 「出生率」
- ② キーワード その2 「地域産業」
- ③ キーワード その3 「連携」

①の「出生率」については、平成25年の利根地域の合計特殊出生率が1.13であり、全国に比べて0.3、県に比べても0.2低い状況であるため、これを向上させる取組が必要である。

②の「地域産業」については、平成27年中に圏央道の開通が予定されており、企業誘致をはじめ産業振興のチャンスである。一方では農業や伝統産業などは衰退傾向にある。このため、チャンスを見逃さず積極的な企業誘致とともに起業支援や農商工連携などを進めることにより、地域産業を活性化させて若者の流失を阻止する取組が必要である。

③の「連携」については、利根地域の9市町は多様で独自性のあるまちづくりを進めているが、財政状況の悪化は避けて通れない状況である。そこで市町間連携や官民連携の強化による広域的で多様な行政展開により、魅力あるまちづくりと行政サービス維持への取組が必要である。

6 検討経過④ 連携事業の検討

次に、整理した方向性について、「利根地域の9市町と県が連携して何ができるか」について、アイディア出しを行いました。この検討に当たっては、実現可能性は考えず、また組織を背負わずにメンバー個人の自由な意見を出していただきました。この結果、非常に面白い多くのアイディアが出てきました。

また、利根地域の特徴として、多様な地域性と生活圏が混在しているため、以下の3エリアに分け、利根地域全体と合わせて4つの枠組みで検討を進めました。

- ① 北埼玉エリア
主に行田市・羽生市・加須市
- ② J R宇都宮線沿線エリア
主に蓮田市・白岡市・久喜市
- ③ 東武日光線沿線エリア



7 検討経過⑤ 利根地域全体での連携事業の展開

利根地域全体の連携事業展開では、課題である「出生率」と「地域産業」に加えて、平成26年度の県政世論調査において、地域別の住みやすさが県内最下位であったことなどから、利根地域の弱点である「魅力発信」の3つの項目で整理を行いました。

- ① 作戦1 出生率アップ
- ② 作戦2 地域産業活力アップ
- ③ 作戦3 魅力アップ

「作戦1 出生率アップ」では、結婚に関する情報や機会の提供、子育て支援情報の提供、利根地域版の子育て支援体制の構築、などの提案を取りまとめました。

「作戦2 地域産業活力アップ」では、若者や女性のための総合的な起業支援、利根地域の大学や企業と連携した企業説明会等の開催、女性の活躍が期待できる業種への支援、企業誘致優遇制度の広域化、などの提案を取りまとめました。

「作戦3 魅力アップ」では、魅力の掘り起こしから発信・環境整備、高校・大学・企業との連携による魅力づくりと魅力発信、ふるさと納税による連携、市町マラソン大会の広域連携、などの提案を取りまとめました。

9 利根地域全体の連携事業展開 promotion & harmony

- 作戦1 出生率アップ！
 - ① 結婚に関する情報や機会の提供
 - ② 子育て支援情報の提供
 - ③ 利根地域版の子育て支援体制の構築 など
- 作戦2 地域産業活力アップ！
 - ① 若者や女性のための総合的な起業支援
 - ② 利根地域の大学や企業と連携した企業説明会等の開催
 - ③ 女性の活躍が期待できる業種への支援
 - ④ 企業誘致優遇制度の広域化 など
- 作戦3 魅力アップ！
 - ① 魅力の掘り起こしから発信、環境整備
 - ② 高校・大学・企業との連携による魅力づくりと魅力発信
 - ③ ふるさと納税による連携
 - ④ 市町マラソン大会の広域連携 など

利根地域振興局企画課 9

具体的な事業に少し触れてみると、例えば、出生率アップのために、「早く結婚して成功を収めた著名人等による高校生や大学生向けの講演会を開催す

る」、地域産業活力アップのために、「金融機関による利根地域固有の優遇起業支援制度の創設」など、これまで自治体では取り組んでいないような斬新なアイデアもあります。

また、「企業誘致優遇制度」、「ふるさと納税」、「各市町マラソン大会」の広域連携など、具体化へのハードルは高いけれども実現すれば大きな成果が期待できるアイデアもあります。

8 検討経過⑥ 地域性・生活圏ごとの連携事業の展開

地域性や生活圏を踏まえた3つのエリア（北埼玉、JR宇都宮線、東武日光線）ごとの連携事業展開では、それぞれの地域の特徴を踏まえた提案を取りまとめました。

① 北埼玉エリア

北埼玉エリアは、豊富な自然と地域資源に恵まれた埼玉有数の穀倉地帯である特徴を活かし、観光振興や農業の担い手育成などの提案を取りまとめました。

② JR宇都宮線沿線エリア

JR宇都宮線沿線エリアは、利便性の高い交通網や埼玉一の梨の生産地という特徴を活かし、定住促進のためのシティプロモーションや梨のブランド化などの提案を取りまとめました。

③ 東武日光線沿線エリア

東武日光線沿線エリアは、日光街道などの観光資源や日本工業大学など複数の大学が立地しているという特徴を活かし、日光歴史街道沿線の活性化や大学との連携によるまちづくりなどの提案を取りまとめました。

そして、もう一つ、JR宇都宮線・東武日光線沿線エリアを一つのエリアとして、圏央道の開通を背景とした企業誘致や創業支援などの提案を取りまとめました。

なお、これらの事業の実施については、埼玉県のふるさと創造資金や国の交付金を活用することを提

案しています。



9 検討経過⑦ 有識者のアドバイス

以上のように本会議では、メンバーだけで利根地域の方向性（政策）や連携事業の提案を取りまとめましたが、利根地域全体の連携事業の3つの柱（出生率アップ、地域産業活力アップ、魅力アップ）について、3人の有識者から個別にアドバイスをいただきました。

まずは、5月に「産業振興」に関して、県産業労働部長の立川吉朗氏からアドバイスをいただきました。

立川部長からは、埼玉県の産業労働政策を紹介いただきながら、個々のメンバーの質問に対して丁寧にアドバイスをいただきました。

次に、7月に「出生率」に関して、県福祉監査課副課長の小峰弘明氏からアドバイスをいただきました。

小峰氏からは、自身が主体的に関わっているコミュニティレストランを題材に子育て支援拠点の重要性や運営方法など具体的なアドバイスをいただきました。

最後に、8月に「魅力」に関して、町づくりカウンセラーの今村まゆみ氏からアドバイスをいただきました。

今村氏からは、魅力の発信や交流人口の増について、広域連携のポイントを説明いただくとともに、各市町の悩みについて具体的なアドバイスをいただ

きました。

10 今後の展開

以上のように、利根未来プロジェクト会議では、約8カ月をかけて利根地域の方向性（政策）と連携事業の提案を「利根未来プロジェクト promotion & harmony of tone」として取りまとめました。

このタイトルには、「9市町が協調して利根地域の魅力に磨きをかけ、もっともっとアピールしていきたい。」という思いが込められており、今後は、本提案の事業化に向けて引き続き検討を進めていくことになっています。

また、冒頭に記述した通り、本会議は各市町の総合戦略策定に対する支援も目的としています。各市町では地方人口ビジョンと地方版総合戦略を策定しますが、策定後はPDCAサイクルによる実施が求められています。本会議では各市町の総合戦略の実行・検証段階においても引き続き支援を行っていくことになっています。

11 おわりに

利根未来プロジェクト会議の真価は、今後の連携事業の具体化にかかっていると思います。

9市町という県内で最も市町数が多く、また、多様な地域性や生活圏が混在している利根地域において、企画担当の中心メンバーがとことん議論を行ってつながりを深めたことは大きな成果の一つであったと思います。

10年後、20年後に私たちが蒔いた種が花を咲かせ、県内外から注目される利根地域となることを夢見てやみません。

終わりに、利根未来プロジェクト会議のメンバーをはじめ各市町の御理解・御協力に対しまして厚くお礼を申し上げます。